7－(1) 授業科目の履修方法について

1．卒業に必要な単位

(1) 科目区分別の卒業に必要な最低限の単位数（卒業の要件）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">科目区分</th><th colspan="4">生活福祉文化学科</th></tr>
<tr><th>必修</th><th>選択必修</th><th>左欄以外からの選択</th><th>計</th></tr>
<tr><td rowspan="3">共通教育科目</td><td>基盤科目</td><td>6</td><td>2</td><td rowspan="3">7～
(5～)</td><td rowspan="7">124</td></tr>
<tr><td>基礎科目</td><td>5
(7)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>教養科目</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>基幹科目</td><td>10</td><td rowspan="4"></td><td></td></tr>
<tr><td>展開科目</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">60～</td></tr>
<tr><td>関連科目</td></tr>
<tr><td>専門演習・卒業研究</td><td>12</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">学際教育科目</td><td></td><td></td><td>0～20</td></tr>
<tr><td colspan="2">合計</td><td>33
(35)</td><td>4</td><td>87
(85)</td><td>124</td></tr>
</table>

◇ 数字は履修単位数を示す。（ ）内の数字は外国人留学生の場合の履修単位数を示す。

2．履修方法

履修すべき科目と単位数は下記のとおりであるが、次項の「履修単位表」及び105～143頁の「履修科目表」により確認すること。

以下、（ ）内の数字は単位数を示す。

【生活福祉文化学科】

以下の１～３の各科目区分の必要単位数を充たしつつ、同時に１～３の合計が124単位以上になるように履修しなければならない。各科目区分の最低必要単位数を合計しても124単位にはならないので注意すること。

1．共通教育科目（22単位以上）

(1) 必修科目と履修単位数について

下記の基盤科目６単位及び基礎科目５単位は、全員が必ず履修しなければならない。

◇ １年次に履修する科目　ノートルダム学Ⅰ・Ⅱ（計2）、キリスト教入門（2）、宗教音楽Ⅰ・Ⅱ（計1）、情報演習Ⅰ（1）、英語基礎Ⅰ（1）、英語総合Ⅰ（1）、英語基礎Ⅱ（1）、英語総合Ⅱ（1）

◇ ４年次に履修する科目　ノートルダム学Ⅲ（1）

(2) 選択必修科目と履修単位数について

下記の基盤科目から２単位、基礎科目から２単位をそれぞれ選択し、必ず履修しなければならない。（これを超えて修得した単位は(3)に算入される。）

◇ カトリック教育科目　キリスト教思想、日本文化と宗教、西洋思想、死の哲学、キリスト教的死生観、聖書と文化、キリスト教音楽のうちから１科目（2）

◇ 外国語科目　上記(1)の科目以外の外国語科目（母語及び母国語にあたる言語の科目を除く）から２

単位を選択し、必ず履修しなければならない。ただし、「Ⅲ」以降の科目を履修する場合には、「Ⅰ・Ⅱ」の科目を履修済みかこれと同等の学力を必要とする。

⑶　選択科目と履修単位数について

上記⑴⑵を除く共通教育科目から計７単位以上を選択し、必ず履修しなければならない。履修にあたっては、下記の点に留意すること。

◇　外国語科目　　母語及び母国語にあたる言語の科目を除く外国語科目について選択し履修できる。ただし、「Ⅲ」以降の科目を履修する場合には、「Ⅰ・Ⅱ」の科目を履修済みかこれと同等の学力を必要とする。

◇　教養科目　　できるだけ（人間と文化）（生活と社会）（人間と自然）の３分野からそれぞれ選択すること。

◇　特定科目　　６単位を上限として卒業要件単位に算入される。

２．専門教育科目（82単位以上）

⑴　必修科目と履修単位数について

基幹科目計10単位及び専門演習・卒業研究計12単位は、全員が必ず履修しなければならない。

◇　１年次に履修する科目　　ライフデザイン基礎論（2）、ソーシャルワーク基礎論（2）、生活福祉文化基礎演習Ⅰ（2）、生活福祉文化基礎演習Ⅱ（2）

◇　２年次に履修する科目　　生活福祉文化基礎演習Ⅲ（1）、生活福祉文化基礎演習Ⅳ（1）

◇　３年次に履修する科目　　生活福祉文化特論（4）

◇　４年次に履修する科目　　卒業研究（8）

⑵　選択科目と履修単位数について

展開科目、関連科目から計60単位以上を選択し、必ず履修しなければならない。

資格取得を目的とする場合には、関係する科目の学年配当に留意して計画を立てて履修することが大切である。

⑶　主専攻と副専攻について

展開科目のうち、ライフデザイン領域又はソーシャルワーク領域のどちらか１つを選択し、50単位以上を修得した者は、その領域を主専攻とする者であることを認める。選択した主専攻と異なる方の領域について25単位以上を修得した者は、その領域を副専攻とする者であることを認める。

３．学際教育科目

自分の所属する学部学科の科目以外の下記の科目を選択し履修できる。０～20単位の範囲で卒業要件単位に算入される。

◇　他学部・他学科専門教育科目　　他学部・他学科の専門教育科目のうち、科目を設置した学部・学科が認めた専門教育科目（履修科目表の科目名に☆印を付した科目）を選択し履修できる。

◇　他大学等単位互換科目　　大学コンソーシアム京都科目（募集ガイドに掲載された科目）及び協定大学単位互換科目（大学コンソーシアムによる科目以外の協定大学の科目）を、２年次から４年次前期まで履修できる。合わせて８単位を上限として卒業要件単位に算入される。

４．外国人留学生の履修方法

外国人留学生については、上記１にかかわらず、外国語科目（計８単位）を下記のとおり履修する。

⑴　必修の英語の科目に代えて、次の外国語科目計６単位を全員が必ず履修しなければならない。

日本語講読Ⅰ（1）、日本語表現Ⅰ（1）、日本語講読Ⅱ（1）、日本語表現Ⅱ（1）、日本語特講Ⅰ（1）、日本語特講Ⅱ（1）

⑵　上記⑴以外の外国語科目（母語及び母国語にあたる言語の科目を除く）から２単位を選択し、全員が必ず履修しなければならない。

7－(2) 生活福祉文化学科履修単位表

（　）数字は単位数

区分	卒業に要する単位（124）					
	共通教育科目等（22～）			専門教育科目（82～）		学際教育科目（0～20）
	必修（11）	選択必修（4）	選択（7～）	必修（22）	選択（60～）	選択（0～20）
1年次	・ノートルダム学Ⅰ(1) ・ノートルダム学Ⅱ(1) ・キリスト教入門（2） ・宗教音楽Ⅰ　(0.5) ・宗教音楽Ⅱ　(0.5) ・情報演習Ⅰ　(1) ・英語基礎Ⅰ　(1) ・英語総合Ⅰ　(1) ・英語基礎Ⅱ　(1) ・英語総合Ⅱ　(1)	必修以外の外国語科目から２～４年次を合わせて計２単位を履修する。	必修及び選択必修以外の基盤科目、基礎科目、教養科目から７単位以上を履修する（ただし特定科目は６単位以内）。	・ライフデザイン基礎論　(2) ・ソーシャルワーク基礎論　(2) ・生活福祉文化基礎演習Ⅰ　(2) ・生活福祉文化基礎演習Ⅱ　(2)	展開科目と関連科目から60単位以上を履修する。	・他学部・他学科専門教育科目 ・他大学等単位互換科目（８単位以内、ただし２年次～４年次前期に履修）
2年次		上記に加えて、以下の基盤科目から２単位履修する。 ・キリスト教思想 ・日本文化と宗教 ・西洋思想 ・死の哲学 ・キリスト教的死生観 ・聖書と文化 ・キリスト教音楽		・生活福祉文化基礎演習Ⅲ　(1) ・生活福祉文化基礎演習Ⅳ　(1)		
3年次				・生活福祉文化特論　(4)		
4年次	・ノートルダム学Ⅲ(1)			・卒業研究　(8)		

（注１）授業科目については、「履修科目表」で確認すること。

（注２）授業科目の履修・登録にあたっては「履修登録の手引き」「開講科目表」、「講義概要（シラバス）」及び「授業時間表」を参照すること。

（注３）　　の基盤科目は２～４年次生配当だが、２年次に履修することが望ましい。